

考えあって学びます 励ましあって進みます

— 校歌と校訓 —

校長 山森 一憲

これは北松尾小学校の校訓です。校歌の3番にもこの文言が織り込まれて、学校教育のありよう「みんなが考えあって知恵出し合って学ぶこと、お互いに励ましあって一緒に伸びようとする事」を示しています。

いつごろから、これが校訓とされたのか調べてみました。過日、旧校長室の資料の中に「創立90周年行事に参加して」という当時の記念事業会計報告を兼ねた学校新聞を見つけました。それには、現在歌い継がれている校歌がこの昭和37年6月15日の創立90周年の記念式典で初めて披露されたことが掲載されていました。校歌の作詞者は、著作に「小さいサムライたち」シリーズがあり教職を退いてからも数々の番組で教育評論をされていた吉岡たすく氏、作曲者は日本初の本格的ジャズマンでガーシュインの『ラプソディ・イン・ブルー』の本邦初演の指揮者でもあった紙恭輔氏です。この新聞の最後のほうに「校歌の作詞をしてくださった吉岡たすく先生の言葉を最後にお伝え致します。」として、吉岡氏による次の言葉が掲載されています。

「私は、今迄（まで）に何回も学校に寄せていただき、勉強をしている様子や劇も見せていただきました。そして感じた校風をもとにして『手と手を組み、肩をくみあい、考えあって学び、はげましあって進んでいく』ことをテーマにして、校歌を作詞しました。九十周年の式典に参加させてもらい、子供たちの劇や音楽、又展覧会場の子供の作品を見て、その素朴さの中に、新しい時代に向って伸びていく子供たちの表現に心をうたれました。と共に、私が作詞した校歌の意図である『考えあいはげましあって』進みつつある現実の姿に、大へんな喜びを感じました。90年の輝かしい伝統の上に、この記念日を契機として、未開拓の分野に向かって勇気をふるって進んでゆかれる学校の姿に接し、心から敬意を表します。」

この文中に「感じた校風をもとに」とあることから、校訓は当時の吉岡氏の感じた北松尾小学校の校風から校歌に織り込まれた歌詞に起源があるようです。創立90周年の校歌ができてから14年後に建立された校訓の石碑が正門脇にあり、裏に「昭和五十一年 役員一同」と刻まれています。このころには、北松尾小学校の校訓として根付いていたと考えられます。

校歌ができて50年たった現在も、教育目標といっしょにこの校訓を大切に当時の校風を保ちたい、そんな子どもたちと教職員でありたい、目指したいと考えます。それは、この校訓が、北松尾小学校が50年前に吉岡氏に感じさせた価値ある校風であり、現在の学校教育も目指さなければならないすばらしい目標であるからです。

学校で教育するのは指導者と授業だけではありません。眼には見えなくても、それぞれの学校には、全体を包み込む空気があります。児童、保護者、地域の方々、教職員、学校に関わる全ての構成員が作り出す学校の風、校風があります。その方向を指し示すのが校訓であるのでしょう。

北松尾小学校が「考えあって学び、励ましあって進む」伝統の校風を引き継ぐよう教職員は努力を積み重ねます。

今後とも、保護者の皆様、地域の皆様のあたたかいお力添えを賜りますようお願いいたします。